

学校法人 仙台育英学園 秀光中学校

二〇二一年度 秀光トライアル

# 国語

(第一問～第三問)

注意

- ・試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
- ・この問題冊子は、十二ページあります。
- ・答えはすべて問題の指示にしたがって、解答用紙に記入しなさい。
- ・解答上の注意が記載してあるので、担当者の指示に従い、必ず読みなさい。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学六年生の「僕」（加賀）は、四月に東北地方から転校してきた安斎と親しくなる。二人の担任の久留米先生は、「僕」の五年生の時からの担任である。

場面は変わる。自宅近くの児童公園だ。そこで安斎が話してくれた内容は、忘れられない。細かいやり取りは例によってうろ覚えだが、おおよそ次のような会話だったはずだ。

「加賀、あのさ」安斎はブランコに尻をつけ、こぎながらだった。僕は隣のブランコの上に立ち、膝を曲げ、少しずつ揺れを強くしはじめた。「たとえば、加賀が、ドクロマークの服を着ていたとするだろ」

①「え、何のこと？」僕はブランコを動かすのに力を入れはじめていたため、大事な単語を聞き間違えたのかと思った。

「ドクロの服だよ。どう思う？」

「どうって」

「それで、学校に行ったら、たとえば久留米先生とか土田が、こう言うんだ。『加賀は、ドクロの服を着て、ダサイな』って」

「そりゃあ」僕は想像する。「やだよ。恥ずかしいかも」

「だろ。そして、たぶん、クラスみんながこう思うんだ。」

『あの、加賀が羽織っている、ドクロのジャンパーはダサイ』って。それから、『加賀はダサイ奴だ』って思う」

「まあ、そうだろうね」

「でも、考えてみるよ。ドクロがダサイなんて、そんな客観的な評価じゃないんだよ」

「客観的って、どういうこと」

「誰が見ても絶対正しいこと、って意味だよ。ドクロマークを恰好いいと感じる人もいれば、ダサイと思う人もいるし。決められることじゃないんだ。正解なんてないんだから。一足す一が二っていうのとは全然違う」

「まあ、そうだけど」

「俺たちは、誰かの影響を受けずにはいられない。」

A

がどう思うかよりも、B がどう思うかを気にしちゃう。君は、ドクロマークがダサイと言われたら、そう感じずにはいられないし、もう着てはこれられない」

「僕は、ドクロのジャンパーを持っていないけど」

「今まであちこちの学校に通ったけどさ、どこにでもいるんだよ。『それってダサイ』とか、『これは恰好悪い』とか、決めつけて偉そうにする奴が」

「そういうものなのかな」

「で、そういう奴らに負けない方法があるんだよ」

僕はその時はすでにブランコから降り、安斎の前に立っていたのだと思う。ゲームの裏技を教えてもらおうような、校長先生の物まねを伝授されるような、そういった思いがあったのかもしれない。

『僕はそうは思わない』

「え？」

「この台詞」<sup>せりふ</sup>

②「それが裏技？」

「たとえばさ、加賀のお父さんが会社を首になったとするだろ」

「なってないけど」

「たとえばだよ。で、誰かに、情けない親父<sup>おやじ</sup>だな、と言われたとする。周りの同級生は少し笑うだろう。そこで加賀は、これだけは言い返すべきなんだよ」

「何て」

「僕は、情けないとは、思わない』ってさ」安斎は自信に満ちた言い方をする。「落ち着いて、ゆっくりと、しっかり相手の頭に **C** ように」

「そんなことに効果があるかなあ」

「あるよ。だって、加賀のお父さんが情けないかどうかは、人それぞれが感じることで、誰かが決められることじゃないんだ。『加賀の親父は無職だ』とは言えるけど、『情けないかどうか』は分からない。だいたい、そいつらは、加賀のお父さんのことを何も知らないんだ。だから、ちゃんと表明するんだ。僕は、そうは思わない、って。君の思うことは、他の人に決めることはできないんだから」

その時の僕は、<sup>③</sup>はあ、と弱々しく相槌<sup>あいづち</sup>を打ったはずだ。安斎の言っていることを半分も理解できていなかった。

さらに安斎は、あの、大事な話をはじめた。

「久留米先生はその典型だよ」

「典型？」

「自分が正しいと信じている。ものごとを決めつけて、それをみんなにも押し付けようとしているんだ。わざとなのか、無意識なのか分からないけれど。それで、クラスのみんなどは、久留米先生の考えに影響を受けるし、ほら、草壁<sup>くさかべ</sup>のことだって、久留米先生が、『ダサイ』とラベルを貼<sup>は</sup>ったことがきっかけで」

「ダサイと言ったんじゃないかって、女子みたいだと言ったんだ」

「転校<sup>てんこう</sup>してきてから観察してただけど、久留米先生は、草壁を見下した態度を取ることが多いよ」と安斎は続けた。たとえば同じような問題を解いたとしても、草壁が正解した時には、「簡単すぎる問題だったかもしれないな」とコメントする。もし、優秀な佐久間が答えれば、「よく分かったな」とプラスの言葉を添<sup>そ</sup>える。それだけでも、本人はもとよりクラスメイト<sup>④</sup>たちに、印象付けを行うことができる。草壁はいつも褒<sup>ほ</sup>められず、佐久間や土田は褒められる。結果的に、草壁は萎縮<sup>いしゆく</sup>し、周りの人間はこう思う。草壁は自分たちより下の人間で、少々、蔑<sup>あひん</sup>ろにしても問題はない、と。

「ちょうどこの間、テレビで観<sup>かん</sup>ただけど」安斎が言う。

「何を？」

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

「何だっけな。教師、教師効果、教師期待効果だったかな」  
「知らないよ」僕はすぐに、頭を左右にぶるんぶるんと振った。

「教師期待効果っていう法則っていうか、ルールっていうか、そういうのがあるんだって。先生が、『この生徒は将来、優秀になりそうだぞ』と思って接していると、実際に、優秀になるんだって」

「え、そうなの？」

「まあ絶対そうなる、ってわけじゃないけど。でも、普通の生徒が問題が解けなくても気にしないのに、優秀になるぞ、と期待している生徒が間違えたら励ますかもしれないだろ。熱心に問題を一緒に解いてくれるかもしれない。何かやり遂げるたびに、たくさん褒める可能性もある。そうすることで、生徒は実際に、優秀になっていく」

「なるほど、ありそうだね」

「逆もあるよ。『この生徒は駄目な子だ』って思い込んで接していたら、その生徒が良いことをしても、『たまたまだな』って思うだろうし、悪いことをしたら、『やっぱりな』って感じるかもしれない。予言が当たる理屈も、これに近いんだって。それくらい先生の接し方には、影響力があるってことかも」

「病は気から、っていうのと同じかな」

安斎はブランコに座りながら腕を組み、ううん、と唸り、「ちょっと違うかも」と首を捻る。

⑤ 話の腰を折ってごめん、と僕は、その時はどうという表現を使ったのか忘れたが言って、安斎の話を促した。

「それを考えれば、一番の敵は」

「敵？」僕は咄嗟に、制御できない巨大なモンスターを思い浮かべた。

「敵は、先入観だよ」

「先入観？」それ自体が分からなかった。

「決めつけ、のことだよ」

「どういうこと」

「久留米先生の先入観を崩してやろうよ」

(伊坂幸太郎「逆ソクラテス」)

問一

——線①「え、何のこと？」とありますが、このように安齋に聞き返した時の「僕」の心情として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 聞き取れないような小さな声で話す安齋にイライラしている。
- イ ブランコを動かしている途中でじゃまされて不快に思っている。
- ウ ドクロマークという単語が突然聞こえてきていぶかしく思っている。
- エ 全く理解できない怪しげな話を始める安齋に恐怖心を抱いている。

問二

——線②「それが裏技？」とありますが、このように言った時の「僕」の気持ちとして最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア ふざけた答えにイライラする気持ち。
- イ 期待が裏切られてがっかりする気持ち。
- ウ ありきたりな答えをばかにする気持ち。
- エ 予想外の答えに驚き感心する気持ち。

問三

□ A、Bにあてはまる言葉の組み合わせとして、最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- |   |     |       |
|---|-----|-------|
|   | A   | B     |
| ア | 安齋  | 久留米先生 |
| イ | みんな | 俺たち   |
| ウ | 誰か  | 自分    |
| エ | 自分  | みんな   |

問四

□ Cにあてはまる言葉として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 刻み込む
- イ つめ込む
- ウ 食い込む
- エ 抱え込む

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

問五

——線③「はあ、と弱々しく相槌を打ったはずだ」とありますが、「僕」がこのようにしたのはなぜですか。最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 安齋の話に共感できず、不信感ばかりがつのったから。

イ 複雑すぎる話なので全く理解できないと感じたから。

ウ 安齋の言うやり方が役に立つか半信半疑だったから。

エ 自分の父親を悪い例に出されたことが許せなかったから。

問六

——線④「印象付けを行うことができる」とありますが、「印象付け」によっておこることとしてふさわしくないものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 草壁は先生に褒められないことで、ばかにされてもいい存在だという印象になる。

イ 佐久間や土田はよく褒められることで、できる生徒だと思われる。

ウ 先生は、草壁をいつも褒めないで草壁は萎縮いしよくしてしまふ。

問七

エ 先生は、佐久間や土田をひいきして草壁を差別しているという印象になる。

——線⑤「話の腰を折ってごめん」とありますが、「腰を折る」の本文中での意味としてふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 大事な部分を否定すること

イ 途中でじゃまをすること

ウ 間違った解釈をすること

エ 先まわりして言うこと

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

トールキンの『指輪物語』を読んだときも、私をいちばんワクワクさせたのは、ギムリとレゴラス、対照的なふたりの友情でした。

ひとりは醜くて、心配性で、地の底が好き。

ひとりはハンサムで、楽道家で、木の上が好き。

まるで正反対のふたりなのに、得がたい絆を結んでいきます。

① 思えば『指輪物語』も、多民族、多文化を描いた作品です。

子どものころに読んだときには、そんなことは微塵も思わずに、ただサムとフロドと一緒に旅をしていたけれど、冒頭のある有名な言葉、「一つの指輪は、すべてを統べる。(One Ring to rule them all)」というのは、まさに「一つの指輪が、多様な者を、一つのルールで支配してしまう」ことを指しています。

『指輪物語』は、多様な者たちが、ある一つのルールによってすべてが縛られてしまう世界に反抗して、その指輪を捨てるに行く物語なのです。

なんといっても、旅の目的が「何かを得ること」じゃなく「何かをあきらめること」「捨てるに行くこと」というのが画期的、従来の冒険物語にはなかったエポックメイキングな発想だったと思います。

② 「指輪を捨てる」というのは、多文化の中で、己の領分だけ

をかたくな<sup>A</sup>に守ろうとする考えを捨てること、時にはあきらめたり、譲<sup>ゆず</sup>ったりしながら、自らも変容して、互いの壁<sup>かべ</sup>を乗り越えていこうとすることでもあるのでしょうか。

何かを「守ること」は、いかにもいいことのように賞賛されます。反対に「あきらめること」「捨てること」は批判の対象にされがちですが、はたしてそうでしょうか。

たとえば、近ごろ「わたし的には」という言葉が流行っています。③ 「わたし的には」という言葉が意味しているのは、つまり「わたしの考えていることは、あなたの考えていることとは違うと思えますが」と、先回りして前置きしているわけです。

言葉のあたりが柔らかいせいで相手に対する配慮<sup>はいりよ</sup>のような感じがするけれど、じつのところは「わたしはわたし」「あなたはあなた」と、あらかじめ一線を引いて、自分と他者を切り離そうとしている、ということでもある。それをあらかじめ言われてしまうと、返す言葉も限定されてしまいます。

「わたし的には」と口にするとき、人は、おそらく他者からの否定も、肯定も、求めていないのでしょう。違いを認めたくなくて、お互いをわかり合おうとする意図もあるのかもしれない。でも、自分が人と違っていいことで傷つきたくない。なので、違いがあるのだからかまわないでほしい、放っておいてほしいと、あらかじめ距離をとってしまう、それが「わ

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

たし的には」という言葉に表れているような気がするのです。

それぞれの価値を尊重した結果、埋めがたい溝が、溝のまま、放置されてしまう。それは、文化人類学で、「相対主義の罠」と言われていたものに似ている気がします。

アメリカにはアメリカの文化があり、ヨーロッパにはヨーロッパの文化があり、日本には日本の文化があって、それぞれに固有の価値観があるのだから、批判してはならないということは、とても大切な大前提ではあるのですが、その結果、ひとつひとつがバラバラのモザイクのように散らばって、わかり合えないことはわかり合えないままということが起こってくるわけです。

文化や伝統は守るべきもの、尊重すべきものという考えかたを否定するつもりはありませんが、相手の中によいところを見つけたら「自分の持っているものより、こっちのほうがいいような気がする」と思うことができる自由、かたくなに守らなくてもいい、捨てたっていい、どちらを選んでもいいんだよという寛容さ、それこそが、本当の自由という気がするのです。

④ イギリスは、かつて大英帝国の植民地政策によって、まさに「一つの指輪は、すべてを統べる。(One Ring to rule them all)」をやろうとした国です。よく知られているように、いまだに厳格なクラス(階級)がある国でもある。でも

だからこそ、サトクリフやトールキンには、支配する、支配されるということに対する実感と深い洞察があったのでしよう。

国と国との戦いなら「戦争」と言ってもらえるけれど、国を失った人、国を持たせてもらえない人がそれをするところ「テロリズム」と呼ばれます。

テロリズムというのは、つまり、圧倒的な力の差があるとき、それでも自分たちは間違っていないということを証明するために、他者を壊してもかまわないという論理です。

自分たちが苦しい状況に置かれ、弱者として押しつぶされようとしている原因は、世界全体がそういうシステムになっていることにある。そうなると、世界全体が彼らの敵であって、そのシステムの恩恵で生きている以上、たとえ生まれたばかりの赤ちゃんでも責任はあるのだから、無差別の暴力によって報復してもよいのだという考えかたであるように思います。

確かに、時として、この世界は、強い者に有利な、ひとつの巨大なシステムとして機能しているように思えてきます。

しかし、だからといって、恐怖を武器にして人を殺すことで、自分の正当性を証明しようとする考えかたは、やはり、どこか大きく間違っています。

かつて日本が「お国のために」と戦争に突き進んでいったように、何かを守ろうとすることは、時に他者を破壊するこ

とをよしとしてしまうほどの強さを持ちうるのです。

だとしたら、<sup>⑤</sup>そこに至らない別の道、境界線を越える別のやりかたを見つけない。

それで思い出すのが、私が『蒼路の旅人』で書いた、タルシュの密偵ヒュウゴのことです。

ヨゴ皇国の出身だったヒュウゴが、なぜ故国を滅ぼした敵であるタルシュの密偵となったのか。『炎路を行く者』『天と地の守り人』に引き継がれるヒュウゴの物語は、あのシリーズで私が最も描きたかったことのひとつでした。ヒュウゴは、チャグムに、こう語りかけます。

「国が滅びるとき、なにがおきるか、思いえなくことができませんか。

敗戦につぐ、敗戦。しだいに都に近づいてくる敵の足音。わたしは、はつきりとおぼえております。夜空の底を赤黒くそめる炎と、守る者のいなくなった都の大門の外で、整列したタルシュ軍が打ちならす、海鳴りのような軍鼓の響きを……。」

チャグムは目をあけて、男を見た。

表情は平静だったが、彼の額には、わずかに汗が浮いていた。

「その光景を、これほど経った今も、夢にみることに

あります。——わたしは、タルシュ帝国に滅ぼされた、ヨゴ皇国の出身ですから。」

——『蒼路の旅人』（偕成社）

B ヒュウゴは、けっして大国タルシュの力に屈して、それにおもねる道を選んだわけではありません。まずは獅子身中の虫となり、時を稼ぎ、ヨゴとタルシュ、双方の出兵を探りながら、自分のような思いをする者が、もうこれ以上現れないですむように、その機会を待った。

なぜなら、そこで暮らす民が平和に暮らすこと。それこそが、自分の願いだとわかっていたからです。

（上橋菜穂子「物語ること、生きること」）

（答えはすべて解答用紙に記入しなさい）

問一

——線①「『指輪物語』も、多民族、多文化を描いた作品」といえるのはなぜですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 一つのルールに支配されずに多様な文化を認め合うことで新しい国を作っていくことが描かれているから。

イ ギムリとレゴラスという正反対の性格の少年たちが、お互いの考えを受け入れながら友情を育んでいく姿が描かれているから。

ウ 多様なものたちが、多文化の中で自分の考えにこだわらずに、捨てたりあきらめたりすることが描かれているから。

エ 指輪を得ることではなく、捨てに行くという今まではない視点を入れて多くの国の人々に読まれた物語だから。

問二

——線②「エポックメイキング」の意味としてふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

エポックメイキング

ア めざましく優れている

イ 広く受け入れられる

ウ 懐かしさを感じる

エ 社会的に認められる

問三

~~~~~線A「かたくな」B「おもねる」と似た意味を持つ語句としてふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

A かたくな

ア いじわる      イ 意地っ張り      ウ 勝ち気

エ 認める

B おもねる

ア じっくり考える      イ 服従する      ウ 見放す

エ なりきる

#### 問四

——線③「『わたしの考えていることは、あなたの考えていることとは違うと思いますが』と、先回りして前置き」することの何が問題なのか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が人と違っていいことで傷つきたくないの、放っておいてほしいと人と距離をとること。
- イ 相手の考えを受け入れるつもりはないと断言すること、相手が返す言葉も限定されてしまうこと。
- ウ 自分と相手の違いを認めてお互いを分かり合おうという意図がうまく伝わらないで、誤解を招くこと。
- エ お互いの考えを尊重するあまり埋めがたい溝が生まれて、結局分かり合えないまま終わってしまうこと。

#### 問五

——線④「『一つの指輪は、すべてを統べる。』をやるうとした国」とはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 厳格な階級を設けて個人の意思とは関係なく支配しようとしたということ。
- イ 多様なものを一つのルールで支配しようとしたということ。
- ウ 平和的な社会を捨てて暴力によって支配しようとしたということ。
- エ 自由な発想を認めずに一つの思想に向かうように支配しようとしたということ。

#### 問六

——線⑤「そこに至らない別の道、境界線を越える別のやりかたを見つける」について後の問いに答えなさい。

- (1) 「そこ」が指す内容として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。
- ア 他者を破壊すること
  - イ 自分の正当性を証明すること
  - ウ 無差別の暴力によって報復すること
  - エ 世界全体が敵だと考えること

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

(2) 「別の道、境界線を越える別のやりかたを見つけ  
る」とはどういうことですか。後の『蒼路の旅人』の  
ヒュウゴの行動をふまえて説明したものととして、最も  
ふさわしいものを次のア、エから選び、記号で答えな  
さい。

ア ヒュウゴは故国を滅ぼされた悲しみを持ちつつも、  
タルシュ国のために働こうと考えを変えていったこ  
と。

イ ヒュウゴが故国を滅ぼされた恨みをはらすために、  
タルシュ国に入り込み復讐する意思を固く持ち続け  
たこと。

ウ ヒュウゴが故国を滅ぼされた悔しさをおさえてタ  
ルシュ国で住むうちに、だんだんと心が癒されて  
いったこと。

エ ヒュウゴは故国を滅ぼされて心に深い傷をおいな  
がらもタルシュ、ヨゴ双方の平和な暮らしを願うよ  
うになったこと。

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「読書」とはどういうことか。「ひとり黙って読む。自  
発的に、たいていはじぶんの部屋で」。「読書と日本人」(岩  
波新書)の著者、津野海太郎さんはしるす。では、<sup>①</sup>そういう  
読書はいつ始まったのか。

「源氏物語を第一巻から、誰にも邪魔されず、<sup>注②</sup>几帳の中に  
こもりつきり、一冊一冊取り出して読んでゆく心地、もう  
後の位だ（おのゝち）って問題じゃないと思うくらいでした(現代語  
訳)」。この更級日記（きんぎょにっぎ）の一節が日本での最初の記録という。

筆者の菅原孝標（すがはらのたかすえ）の女の13歳の記述である。その150年前  
の菅原道真（みちざね）の随筆には、大学者なのに一人静かに書物に集中  
できる場所がないのを嘆（なげ）いている。部屋にこもって、思うが  
ままに本を読む幸せ（しあわせ）がシル（さ）されたのは歴史的（れきし）事件だった。

こちらはコロナ禍（か）という歴史的（れきし）事件によって半ば強（つよ）いられ  
た「巣（す）ごもり読書」である。今や通勤電車でも本に集中でき  
る現代人だが、<sup>③</sup>図らずもゴールデンウィークをまるまる几帳  
ならぬ自室にこもっての読書に費（つひ）やせることになった。

コミックや学習参考書のほか、資格シ（し）ュ（しゅ）ト（と）ク（く）関連本（かんれんほん）が売れ  
る巣（す）ごもり下の書籍事情という。コロナ後（ご）にソナ（そ）エ（え）た個々の  
身構（みかま）えをうかがわせるが、古典や最新の思想書など日ごろ手  
の出にくい本を通してコロナ後世界を占（おさ）ってみるのはどうか。

<sup>④</sup> 人類の知恵の貯水池（ちずみづ）におもりを垂（た）らして未来を探る読書の  
体験である。いや、私はちょっとそれは……という方は、む

ろん寝転がって、気になっていた物語を楽しんでもいい。后の位も目<sup>⑤</sup>ではない幸福は今もある。

(毎日新聞「余録」二〇二〇年五月二日掲載)

注 几帳……布製のついたて。昔、部屋の仕切りに使った。

問二

線①「そういう読書」とはどのような読書のことでですか。最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア みんなと一緒に、部屋にこもって楽しむ読書。
- イ 誰にも邪魔されず、図書館にこもって楽しむ読書。
- ウ ひとりで黙って、自室にこもって楽しむ読書。
- エ ゴールデンウィークをまるごと使って楽しむ読書。

問一

線(a)～(e)についてカタカナは漢字を、漢字はその読みを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

|     |       |   |     |   |     |
|-----|-------|---|-----|---|-----|
| (a) | 嘆いて   | ア | うつむ | イ | なげ  |
| (b) | シルされた | ウ | く   | エ | たん  |
|     |       | ア | 記   | イ | 印   |
|     |       | ウ | 標   | エ | 紀   |
| (c) | 半ば    | ア | はん  | イ | ちゅう |
|     |       | ウ | なか  | エ | じゅう |
| (d) | シュトク  | ア | 主徳  | イ | 習得  |
|     |       | ウ | 取得  | エ | 修得  |
| (e) | ソナえた  | ア | 供   | イ | 具   |
|     |       | ウ | 構   | エ | 備   |

問三

線②「帳」の総画数は何画ですか。また、太字になっている部分は何画目ですか。その組み合わせとしてふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

帳

|   |     |     |
|---|-----|-----|
|   | 総画数 | 画数  |
| ア | 十一画 | 四画目 |
| イ | 十一画 | 五画目 |
| ウ | 十二画 | 四画目 |
| エ | 十二画 | 五画目 |

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

問四 —— 線③ 「図らずも」の意味として最もふさわしい

ものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 思っていた通り
- イ 図った長さ通り
- ウ 思いがけず
- エ 心がけても

問五 —— 線④ 「人類の知恵の貯水池におもりを垂らして

未来を探る読書の体験」とはどういうことですか。その説明としてふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 先人の知恵や現代の最新の考えに触れコロナ後の世界を考えてみるということ。
- イ 菅原孝標の女のように後の位を気にせず本を読む幸福について考えるということ。
- ウ 菅原道真の随筆を占いのように活用して未来のことについて考えてみようということ。
- エ 几帳ならぬ自室にこもりっきりで、一人静かに読書に時間を費やすということ。

問六 —— 線⑤ 「目ではない」の意味として最もふさわしい

ものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 見ていて不愉快になる
- イ たいしたことではない
- ウ 見方にかたよりがある
- エ 真実を見抜く力がない

問七 本文の内容としてふさわしくないものを次のア～エから

選び、記号で答えなさい。

- ア 何百年も前から「読書」とは一人静かに、じぶんの部屋で読むことである。
- イ 今も昔も、思うがままに本を読む幸せは、后になるよりも幸せなことだ。
- ウ ゴールデンウィークを読書に費やすことは現代人にとって大切な時間だ。
- エ 「巣ごもり読書」とはコロナ禍で外出を控えている様子を表現している。
- オ 昔は一人静かに書物に集中できる場所がないのを悲しむ人もいた。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

## 解答上の注意

- 1 解答にはH Bの黒鉛筆を使用してください。
- 2 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
- 3 マーク例

| 良い例 | 悪い例     |
|-----|---------|
| ●   | ⊙ ⊗ ⊙ ⊙ |

- 4 解答例  
第一問

|    |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|
| 問一 | ア | イ | ウ | エ |
| 問二 | ア | イ | ウ | エ |
| 問三 | ア | イ | ウ | エ |
| 問四 | ア | イ | ウ | エ |